

～ 【 先輩達が残した道標 】 ～

令和3年度も残すところ2週間となりました。3月も中旬に入ると急に気温が高くなり、桜の花も咲き始めました。

卒業式から10日経ちました。朝、正門で生徒達を迎えています。やはり3年生のいない鹿南中は寂しさを感じます。

3学期の私の「夢」は合唱コンクールを開催すること、卒業式を本来の内容で実施すること、3年生の入試が無事に終わること、の3つでした。

しかしオミクロン株による第6波のおかげで、合唱コンクール、卒業式の夢は砕かれました。

ただ、あの素晴らしい卒業式の雰囲気だけでも在校生に伝えたいと願い、卒業式の記録映像を編集し、これに式後に卒業生や保護者に披露された動画を

加えて、「卒業式のダイジェスト版」をつくりました。そして卒業式のちょうど1週間後の3月11日(金)の放課後、集会を開催し、1、2年生に見せました。



集会後、数人の生徒に感想を聞きました。永原君の答辞、お別れの動画を見て、泣きそうになりました。来年、自分たちもあんな卒業式を迎えたいです、答えてくれました。

元気で底抜けに明るかった3年生。在校生は先輩達が卒業する姿を直には見る事ができませんでしたが、卒業生は後輩達へ映像を通して、確実に未来への道標を残してくれたようです。

1年度の鹿南中もとても楽しみです。

～ 【 募金に協力を！ 】 ～

ロシアによるウクライナ侵攻。子ども達はどれくらいこの事件について知っているのでしょうか。

第三次世界大戦が起きるとか、そんな極論も聞こえますが、今、最も心が痛むのは、罪もない市民、子ども達が戦火に巻き込まれ、かけがえのない命が失われ続けていることです。幼い子ども達がおびえた目でお母さんにしがみついている姿を見ると、近い将来、日本がこうなったら私達日本人はどんな行動をするのだろうかと思ってしまいます。

眠いけど朝起きて、朝ごはん食べて、学校に行っただけで勉強して、部活でくたびれて帰って…、そんな何気ない日々の繰り返しがどんなに幸せなことかを思い知らされます。

さて今、私達にできることとは何でしょうか。そ

うした気持ちを生徒会の皆さんは「ウクライナ緊急募金」という形で実現してくれました。

今日から募金が始まりました。朝、体育館前に募金箱を持った生徒会執行部の生徒達が「ウクライナ緊急募金にみなさんご協力お願いします！」と登校する生徒に呼びかけていました。



募金によって集められたお金はUNICEFに送られ、ウクライナの子ども達の教育や福祉のために使われます。

鹿南中の皆さん、お小遣いのほんの一部をウクライナの子ども達のために寄付してください。明日からも募金活動は続きます。(今日は募金の様子を熊日から取材に来られました。)

～ 【 平和の礎 】 ～

平和を希求するならば、募金だけでは足りません。平和を願うこと？願うだけでは平和は訪れません。大切なことは正確な情報をたくさん集め、それに基づいてしっかり自分の考えを持ち、発信することです。

プーチン大統領は「悪」だ、で思考停止してはだめです。今回プーチン大統領があのような暴挙に訴えなければならなかったのはなぜか。ウクライナとロシアの関係はこれまでどうで、これからどうなるかとしていたのか。ロシアとNATO

の関係は。バイデン大統領が「アメリカは派兵しない。」と早々に宣言したのはなぜか。ウクライナの市民



だけでなく、ロシアの市民はどうなっているのか。SWIFTとは何か。それでは我が日本はこれからどうなっていくのか、どうなってほしいのか。そんな疑問点をたくさん見つけ、自分なりの答えを持たなければなりません。そのような態度が社会科で言うところの「公民的資質」です。

生徒の皆さん、「どうも分からない！」と思った時には家族で話し合ったり、担任の先生や社会科の先生に、食欲に聞いてほしいと思います。その態度こそが平和の礎になっていくのです。